

## 第4章 第二次計画での取組み

### 1 年代や生活環境に合わせた取組み

#### (1) 乳幼児期への取組み

乳児期は、初めてことばと出会う時期です。また、この時期はコミュニケーションの基礎をつくる時期でもあります。保護者やまわりの大人たちがやさしく語りかけることで、心のスキンシップが生まれます。

絵本やわらべうたは、子どもの心に直接はたらきかけます。そのため、特に子どもに言葉かけをする機会を多くする取組みを行います。

幼児期は、人格の基盤を形成する大切な時期です。またこの時期は、絵本やわらべうたを楽しむ力が備わってきます。絵本を読んでもらう喜びを感じることによって、絆が生まれます。

この時期は、家族だけでなく、地域や図書館・行政の連携を密にする取組みが必要です。

#### (2) 児童期への取組み

児童期は、小学校の時期と重なり心と体の発達が著しい時期です。

この時期は、本を読んでもらうだけでなく、自分で本を読めるようになります。いろいろな分野の情報に触れる機会として、本の紹介を行ったり、本の情報を共有できるようにします。

#### (3) 青年期への取組み

青年期は、中学生・高校生で、自己啓発や自己確立の時期です。勉強や部活動などで、本を読む時間は少なくなりがちです。図書館ではヤングアダルトコーナー（YAコーナー）をつくり、幅広く本の収集を行います。

中学生・高校生は、興味のある分野については、より深く知識や能力を高めていく年代なので、どんなものに興味があるのかをリサーチし、環境整備をしっかりと行います。

## 2 家庭・地域

## 乳幼児期～青年期までへの取組み

### [読書へのきっかけづくり]

- 講習会や講演会については、引き続き読書のきっかけづくりになるもの、親子参加型のものなど、市内在住のさまざまな分野の人材を活用して開催します。市民に協力を依頼することによって、地域をあげて子どもたちの読書環境を整備していこうという意識が高められることも期待できます。(p32 1-1、1-4)
- 中高生が読書に関する情報を自ら発信する場づくりについては、ホームページやツイッターのさらなる活用を進めます。(p32 1-2)
- 地域に対する取組みとしては、子育てサークル、子ども会館・子どもの家や障害児活動支援センターへの訪問サービスを継続させ、現在訪問していない施設へはPRを充実させます。サービスの充実や拡大に向けて、おはなしボランティアとの協働の進め方を検討します。(p32 1-3、1-7)
- ブックスタート事業(6か月児育児教室にて絵本の読み聞かせや図書館のPRを行いながら絵本や子育て情報誌の入ったブックスタートパックを手渡す事業)については、今後も継続して取り組みます。(p32 1-5)
- 保育園・幼稚園での絵本の読み聞かせ、本の紹介を推進します。(p32 1-6)
- 地域の私設図書館(地域文庫・家庭文庫)に図書館ホームページ等で連携を呼びかけます。(p32 1-8)

### [子どもに関わる施設の充実]

- 子育て支援センター、子ども会館・子どもの家、保育園では関係課との連絡を密にし、引き続き蔵書の充実を図ります。図書館からの寄贈本搬送方法についても関係課と連携し、手段を検討します。(p32 1-9、1-10、1-11)

※ ( ) は対応する取組み事業一覧です。

## 【情報の収集と発信】

- 保護者に向けて、本や図書館のPRを継続します。その手段として、ブックスタートのアンケートの活用や、かまくら読書活動支援センターのPRパンフレットの学校配布の方法を検討します。(p34 1-12)
- 読書に関する情報を、引き続き、「かまくら読書活動支援センター」で収集します。(p34 1-13)
- インターネットを活用した、子どもの読書に関する支援情報のPRについては、図書館ホームページを小学生や中高生にさらにわかりやすく、親しみやすいものとし、情報をPRします。(p34 1-14)
- 読書関連イベントのPRなど、情報発信の場として地元メディアを活用することに関しては、メディアに情報を流していくシステム作りを進めます。また、情報発信の方法として、新たな情報技術を活用します。(p34 1-15)
- 本の紹介リストの配布、インターネットでの配信については継続事業とし、中高生向けのリストについては紙媒体での発行も必要か検討し、中高生へのアプローチを進めます。(p34 1-16)
- 保育園・幼稚園での絵本の読み聞かせ、本の紹介の充実につながるので、図書館職員と保育士、幼稚園教諭が情報交換できる場を設定します。無理なく情報交換を行えるシステム作りを模索します。(p34 1-17)

### 3 学校 児童期～青年期までへの取組み

#### [読書へのきっかけづくり]

○学校での読書環境づくりのため、今後も、市図書館と学校図書館専門員・読書活動推進員の交流・情報交換をすすめ、子ども同士でブックトークを行うための支援や必要な資料の充実を図ります。(p34 2-1)

○調べ学習のための資料や学級文庫の充実については、平成23年度より市図書館で開始した学習パックや子ども読書パック等を活用します。市図書館では、学習パックのテーマを増やし(毎年1パック追加予定)、より利用環境を整え、学校図書館支援を図ります。(p34 2-2、2-3)

#### [学校図書館]

○学校図書館の蔵書数、蔵書内容の充実については、蔵書数だけでなく利用しやすい蔵書、利用される蔵書構成の充実を図ります。そのための学校資料収集方針、選定方針策定に、学校図書館、市図書館で情報交換を行いながら取り組みます。利用状況についての調査も検討していきます。(p36 2-4、2-5)

○学校司書の配置については、中学校が読書活動推進員の配置にとどまっていることが課題となっています。市内の中学校に学校図書館専門員を配置できるよう、目標を掲げて取り組みます。(p36 2-6)

○利用しやすい学校図書館づくりやテーマ展示についても、学校図書館専門員・読書活動推進員を中心に引き続き行います。(p36 2-7)

#### [連携]

○蔵書のデータ化については、自校での蔵書管理のための方法として研究を続け、情報収集を行い、次のステップにつなげていきます。(p36 2-9)

- 学校図書館と市図書館の本の相互利用のための搬送手段の充実については、依頼の増加に対応できる体制づくり、搬送業務の委託化などを検討します。(p36 2-10)
- 市図書館が学校への訪問サービスを行い、連携の充実に努めます。(p36 2-11)
- 地域ごとの小学校・中学校・高等学校・市図書館のたてのつながりで、よりきめ細かい協力・連携が行えないか、模索します。また、私立の学校からも要望があれば積極的に連携していきます。(p36 2-12)
- 学校図書館と市図書館との連携の充実については、教職員、学校図書館専門員、読書活動推進員、教育指導課職員と図書館職員との情報交換の機会を増やし、要望を把握し、実現に向けて努めます。(p36 2-12)
- かまくら読書活動支援センターが、学校とおはなしボランティアをつなぐ橋渡しとなるよう取り組みます。(p36 2-12、p40 3-15)

## 4 図書館・行政 乳幼児期～青年期までへの取組み

### 〔施設〕

- 乳幼児と一緒に来館しやすい施設づくりについて、地域館では行政センター内に授乳ができる場所がありますが、図書館と同じフロアにほしいという要望もあり、事務室の一角など、希望があれば図書館内で授乳ができるよう、検討します。授乳やおむつ替えのできる場所があることを掲示するなど、PRを強化していくことが必要です。(p38 3-1)
- 各図書館、それぞれが配架の工夫をして、手に取りやすい本の見せ方を検討します。行事の際にとっている保護者からのアンケート結果を参考に、施設の改善を図ります。(p38 3-3)

### 〔資料〕

- 税収の減少により資料費については削減傾向にあります。そこで、以前から受け付けている寄贈本について、図書館からの要望も伝えながら積極的にPRし、活用していくシステムを作ります。(p38 3-4)
- 図書館職員が地域に根差した利用を把握し、選書をしていく中で、魅力ある蔵書構成を目指します。(p38 3-4)

### 〔読書相談〕

- 常に子どもたちの求めているものをリサーチし、読みたい本、必要な本が読みたいとき、必要なときに手に届く図書館を目指します。(p38 3-5)
- レファレンスについては、統計をとり、蔵書構成に反映させます。(p38 3-5)

## 【行事】

- 子どもと本をつなぐ行事の充実については、「おひざにだっこのおはなしかい」「おはなし会」「一日図書館員」などの行事を今後も継続して行います。0～1歳児を対象とした「あかちゃんと楽しむおはなしかい」については、各館で回数を増やしていき、幼い時期から絵本やわらべうたに親しむ機会を作り、子どもを取り巻く保護者への支援も充実させます。おはなし会などの行事の土日開催も検討していきます。(p38 3-7)
- 中学生の職場体験活動、高校生等のインターンシップを積極的に受け入れます。(p38 3-8)
- ヤングアダルトを対象としたイベントについて、中高生の意欲を引き出すものとして、参加型のイベントを企画します。中学校、高等学校図書委員などと交流を図り、要望把握に努めます。(p38 3-9)

## 【訪問サービス】

- 引き続き子育てグループ、小学校、中学校、高等学校、子ども会館・子どもの家、障害児活動支援センターへ訪問サービスを実施します。現在、訪問していない施設への訪問サービスのPRを充実させます。保育園、幼稚園にも要望に応じた訪問サービスを行います。(p38 3-10)

## 【人材育成】

- 神奈川県図書館協会主催の研修や、職員同士の勉強会などを重ね、常に図書館職員としての専門性の向上に努めます。(p40 3-11)
- 保護者やボランティア、保育士・幼稚園教諭、教職員、行政関係者など子どもの読書活動推進に関わる大人たちの意識啓発に努め、「本と人の輪づくり」につながる支援を行います。(p40 3-11、3-12、3-13、3-14)

- 引き続き、教育指導課や教育センターと連携し、学校図書館専門員・読書活動推進員や教職員への研修を行い、子どもと本をつなぐ教育の支援を行います。(p40 3-12)
- 図書館や地域でのおはなしボランティア希望者を対象とする「おはなしボランティア養成講座」を継続して開催します。おはなしボランティア養成講座修了生全員を対象に「ステップアップ講座」を開催し、おはなしボランティアのスキルアップを支援します。(p40 3-13)
- 保護者や保育士・幼稚園教諭対象の講座について、ニーズの把握に努め、求められた内容について講座などを企画・検討します。(p40 3-14)

## **[連携]**

- かまくら読書活動支援センターでは、主に学習パックや子ども読書パックの管理や相談などを行っていますが、PRを充実させていくための手法等を検討します。(p40 3-15)
- かまくら読書活動支援センターを中心として、読書相談や訪問サービスのPRを充実させ、関係機関とのネットワークの強化を図ります。(p40 3-15)
- かまくら読書活動支援センターや推進連絡会で築いた図書館と関係部署との連携を機軸に、図書館が橋わたしとなり、学校等とおはなしボランティアとの連携を支援します。(p40 3-15)
- 推進連絡会は、計画の進捗状況を確認・検証するための機関として機能してきましたが、ここでの連携がこの計画の円滑な実施につながっています。関連部署との協力体制をより充実させるとともに、地域住民ニーズを把握して、推進連絡会をより実行力のあるものへとしていきます。ヤングアダルトへのサービスを充実させるため、高等学校にも協力を得られるよう検討します。(p40 3-16)
- 学習パック・子ども読書パックについては、アンケート等によりニーズを把握し、より利用しやすいものを目指します。サービスの充実・拡大に向けては、搬送体制



の整備が必要であり、修学旅行パックの利用が集中する4、5月だけでも搬送体制を整備していく方法を検討します。(p40 3-17、3-20)

○ボランティア同士の情報交換の場としての「本の海サポーターズ交流会」では、ボランティアの図書館に対する率直なニーズを把握し、その解決策を示していける体制作りを検討します。(p40 3-19)

### **【地域性を活かして】**

○子ども向け地域資料の作成、リスト作りに取り組みます。(p40 3-21、3-22)

○図書館まつり(図書館フェスティバル)を開催し、期間中、子ども向け行事を充実させます。(p40 3-23)

○世界遺産登録を目指して、子どもたちとともに鎌倉らしい企画をたて、実施します。「世界遺産」をテーマとする学習パックを作成し、活用します。(p40 3-24)

○地元書店・地元出版社との連携の充実に努めます。(p40 3-24)

### **【環境整備の大切さを広く伝えるために】**

○図書館にちなんだ日や第二次鎌倉市子ども読書活動推進計画にちなんだものなど、引き続き行事の開催と充実に努めます。(p42 3-25、3-26)

○読書関連情報やイベントのPRに努めます。(p42 3-27)

○子どもと保護者、教職員に向けた本のリスト作成を図り、手に取ってもらえるよう、広く配布・配信します。(p42 3-28、3-29)

## 【読書活動がしにくい子どもへ】

- 録音図書等を、特別支援学級・障害児活動支援センター等へ貸出するサービスを検討します。(p42 3-30)
- 視覚の不自由な子どもへは、録音図書の郵送サービスを行っており、引き続きPRに努めます。(p42 3-30)
- 家庭や集会室・町内会等への訪問サービスの取組みをよりPRします。(p42 3-31)
- 特に読書活動がしにくい子どもへのサービスとして、「読書についてのなんでも相談窓口」を開設し、幅広く対応できるよう努めます。(p42 3-32)
- ニーズの把握に努め、先進的なサービスを行っている図書館の実践を聞く研修を、図書館職員、おはなしボランティア等を対象に行うなど研究に努めます。(p42 3-32)
- 不登校やひきこもりの子どもたちにも、読書を楽しんでもらえるよう、関係部署やNPOなどと連携していきます。(p42 3-32)